

三番瀬市民調査の会が報告会を開きました

東京湾の最奥部に広がる貴重な浅瀬・干潟「三番瀬」。ここには、20年前、740haもの埋め立て計画がありました。



三番瀬市民調査の会の報告会
11月8日・船橋市内

これにたいして、豊かな自然を後世に残そうと「三番瀬を守る会」がつくられ30万人の署名を集めて県に提出。シンポジウムや三番瀬ビデオの作成など多彩な取り組みも広がりました。

そしてついに2001年、県によって埋め立て計画は白紙撤回されました。しかし、三番瀬を横切る第2湾岸道路計画は撤回されなかったため、新たな埋め立ての火種となっています。

三番瀬のありのままを市民が調査

こうしたなか、三番瀬のあ

りそのままの姿を市民目線で調べようと2003年から始まったのが「三番瀬市民調査の会」です。それ以来、15年間、市民と研究者が協力し合って調査活動が続けてきました。毎年12月には「報告会」を開いて、調査結果を発表してきており、今年は12月8日、船橋市内で行われました。

15年間で239種の生物を確認

今年の「生き物調査」では、88種の動物、5種の植物、8種の野鳥を確認。15年間を通して確認できたものは、

の重金属分析」となっており、多岐にわたっています。

動物171種、植物18種、野鳥40種にのぼり、いかに生態系を支える豊かな自然なのかを物語っています。

この間、市民調査の活動に、

しています。

法政大学人間環境学部の高田ゼミ生も加わり報告も行っています。この日の報告会には、法政大学の高田雅之教授も参加して、特別講演を行いました。

「県民の森のトイレが汚い」との声を受け 現地を調査して県に改修を要請

千葉県は、県内6カ所で「県民の森」を開放しており、船橋市内にも「船橋県民の森」（船橋市大神保町）があります。市民から「船橋県民の森のトイレが汚いので改善してほしい」との要望が寄せられたので、11月8日、

せる憩いの場です。

現地に行つて調査しました。船橋県民の森は、大木が生い茂り、アスレチックや運動場、キャンプ場なども作られていてバーベキューもできるため、人気のスポットとなっています。家族やグループが自然の中で楽しい時間を過ごす憩いの場です。

トイレは、清掃はきちんと行われていますが、水洗でも洋式でもない古いトイレで、壊れて使えなかったり、電気がつかなくなっているなど、改修の必要があることが分かりました。「前はよく行っていたけど、トイレが直らないので、最近は千葉市の公園に行っている」という話もあります。

自然と親しめる憩いの場がこれでは、県の姿勢が問われます。

この日の調査結果をもとに11月27日、県民の森を所管している県農林水産部に、現場の写真を渡して改修を要請しました。

日本共産党が事務所開き 丸山慎一県議が来年に向けて決意表明



12月8日、来年4月の県議会議員選挙に向けた事務所開きが行われました。船橋駅から歩いて5分ほどの便利な場所です。この日は地域のみなさんを始め、たくさんの方が集まっていただきました。

千葉県議会は定数95で共産党は5議席です。船橋市選挙区は定数7で共産党は1人。丸山慎一県議は、「来年4月の県議会議員選挙では、自民党を過半数割れに追い込み、共産党が議案提案権（8議席）を確保し、8つの常任委員会すべてに所属するために、中沢学船橋市議とともに船橋選挙区で2議席獲得に挑戦する」とあいさつ。「県議選で勝利し、市議会議員選挙での8議席確保、参議院選挙での躍進を勝ち取りたい」と決意を述べました。



故障したままになっているトイレ。
11月8日・県民の森



壊れていて使用禁止の水道。
11月8日・県民の森